

(2)

第四節 自一九四四年十二月 至一九四五年一月上旬 呂宋島ニ於ケル軍隊部署ノ

概要

一、十二月上旬ニ於ケル在呂宋島軍隊配備一部ノ變更

「レイテ」作戰ノ進捗意ノ如クナラズ方面軍ハ呂宋島ノ作戰準備ヲ促

進スル爲十二月八日一部ノ配備ヲ變更セリ 其ノ概要左ノ如シ

ノ第百三師團長ハ獨立混成第五十八旅團ノ新作戰地域内ニ在ル其ノ隷

下部隊ヲ新作戰地域内ニ轉移セシメ「ラオアツグ」「ピカン」及「スヨ」附近ノ警備ヲ強化

セシメ特ニ隸下旅團長ヲシテ一地區トシテ之ヲ統一指揮セシメ又「スヨ」「サバンガン」

道ニ沿フ地區ノ防禦施設ハ「バギオ」後方據點ノ構成ニ連繫セシム

2. 獨立混成第五十八旅團長ハ其ノ一部ヲ「バギオ」及其ノ北方地區並

ニ北「サンフェルナンド」附近ニ轉進シ同地ニ於ケル第百三師團ノ

警備並ニ北「サンフェルナンド」地區ニ於ケル揚塔作戰及泊地防衛

ニ關スル任務ヲ繼承ス

3. 第二十三師團ノ歩兵一大隊ヲシテ概ネ「アグノ」河以西地區ノ警備

ニ任セシム

「サブリラン」 「タクボ」 「ビデス」 「アムヤオ」

山「オリオン」 「サンタス」 間ノ「バギオ」 局邊地區後方根據ノ構

成ハ依然方面軍ニ於テ之ヲ直轄ス

又戰車第二師團ハ作戰地域内ノ警備ニ任ス

又第二十三師團長ハ「ハントバンガン」 「リザール」 「ムニヨス」 「サ

ンアントニオ」 「サントトーマス」 「サンタマリア」 「サンキンテ

イン」 間ノ地域ニ集結シ「サンホセ」 三角山ハ「ウミンガン」 西兩

方丘陵地帯ノ附近ニ障地ヲ構築シ爾後ノ作戰ヲ準備ス

障地構築ノ細部ハ左記ノ如ク別ニ示サレタリ

左記

兵團主力ヲ以テスル障地構築ハ敵ホ十二月末ヲ目途トシテ一ヶ師

團ノ障地ノ骨幹ヲ構成シ爾後時日ヲ得ハ増強ス

特ニ三角山及「サンホセ」附近ニ重點ヲ構成シ共ニ四周ニ對スル

24

反撃ノ支拂タリ得ル如クス

別ニ「バヨンバン」「マングタレー」附近ノ「アグノ」河渡河點ヲ

阻止障地及「ウンサド」附近ノ丘阜障地ヲ增強ス

6. 野戦重砲兵第十二聯隊主力、獨立重砲兵第四大隊ハ一中隊缺ヲ獨

立混成第五十八旅團長ノ野戦重砲兵第十二聯隊ノ一大隊ヲ「サンホ

セ」ニ於テ第二十三師團長ノ指揮下ニ入ラシム

7. 各兵團ノ配備變更ハ十二月中旬マデニ之ヲ完了ス

十二月中旬ニ於ケル軍隊部署ノ概要

十二月中旬ニ至ルヤ有力ナル米軍ノ輸送船團ハ「ミンダナオ」海ヨリ

西北方ニ前進シ十五日紀一箇師團ノ敵ハ「ミンドロ」島ニ上陸セリ此

ニ於テ軍ハ既述ノ如ク呂宋島作戰ニ關スル方針ヲ決定シ急遽左ノ如ク

一部兵團ノ移動ヲ命令セリ

ノ第百五師團ハ幾シ得ル限り多クノ兵力ヲ「ナガ」方面ヨリ抽出シテ

急遽「アンチボロ」附近ニ轉進セシム

2. 第八師團ハ速カニ一部ヲ先遣シ兵團主力ノ爲「アンチボロ」東方地

區ニ據點ヲ構成ス

3. 小林兵團(マエラ防衛隊)ハイボ附近ノ陣地占領ヲ準備セシム

4. 第二十三師團ヲ「リンカエン」方面ニ移動セシメ第十師團ヲシテ之

ト交代セシム

5. 參謀ヲ夫々「アンチボロ」「クラーク」方面ニ派遣シテ同方面據點

ノ陣地ヲ偵察セシム

6. 其ノ他兵力轉用ノ爲ノ輸送、兵站ノ施策ヲ緊急ニ處置セシム

7. 「レイテ」ノ輸送ヲ停止ス

以上ハ新作戰方針ニ基キ十二月十五日ヨリ二十日頃ニ亘ル間逐次ニ部

署セラレタルモノニシテ方面軍司令部ニ於テ之ト併行シ作戰計畫ノ具

体化ヲ策セリ、此ノ間十五、六日頃ニ於テハ米軍カ急遽「マエラ」ニ

突入スルコトモ懸念セララルニ至レリ蓋シ米軍ノ「ミンドロ」島進撃

ニ伴ヒ呂宋島ノ各地殊ニ「マエラ」「クラーク」方面ノ我カ飛行基地

25

ニ對スル空襲ハ猛烈トナリ且敵ノ二箇船團中其ノ一船團ノ行方不明ナ
リシヲ以テナリ、然ルニ其ノ後米船團ノ全力カ「ミンドロ」島ニ上陸
セルコト判明セルヲ以テ爾後次第ニ「ルソン」島ノ上陸ハ恐ラク一月
中旬以後一月下旬頃トノ判断濃厚トナレリ

三 十二月下旬ニ於ケル軍隊部給ノ概要

「マニラ」東北據點及「クラーク」據點ノ認定ハ十二月下旬ニ至リテ
漸ク其ノ要領確定シ方面軍ハ夫々命令スル所アリ

ノ要武集團ノ編成

十二月二十七日方面軍ハ左記要旨ノ命令ヲ下セリ

左記

- 一 集團ハ「マニラ」局邊ノ作戦態勢ヲ強化セントス
- 二 第八師團長ハ左記兵團、部隊ヲ併セ指揮シテ要武集團トナリ別紙
第一ニ準據シテ其ノ兵力ヲ「マニラ」東方地區ニ專用シ中、爾部
呂宋ニ於ケル作戦ヲ擔任遂行スヘシ

三四

1111

「マニラ」防衛隊

第五師團

(歩兵第一旅団) ^{八上} 松田 主カ 其ノ 池ノ

河島支隊

(歩兵第八旅団) 主カ 其ノ

野口支隊

(歩兵第八旅団) 主カ 其ノ

「マニラ」防衛隊、第五師團、河島支隊及野口支隊ハ一月一日

零時ヲ以テ振武集團長ノ指揮下ニ入ル

^{八上} 松田 主カ 其ノ

四振武集團長ノ中、南邵呂宋ニ於ケル ^{八上} 松田 主カ 其ノ

邵呂宋作戦指導要領並ニ同相違ニ準據スヘシハ ^{八上} 松田 主カ 其ノ

連目下資料不明ニ作戦準備完了ノ時後ハ一月中旬末トスルモ其ノ

關陸防敵ノ攻勢ニ對處シ得ルヲ要ス

河島支隊ニ野口支隊方面ヨリハ敵情ヲ觀察シテ、逐次其ノ兵力ヲ抽

出シ之ヲ主力方面ニ轉用スルコトヲ程

六野口支隊ヨリ「サンベルナ」ニ派兵據守ノ任務ヲ解ク

七第山頂並ニ第五第六段ノ兵力轉用ニ關シテハ敵ニ企圖ノ秘匿ニ

26

ムヘン

八 振武集團作戰地域内ニ於ケル陸上戦闘ニ方リテハ戦闘ニ關シ指揮
下以外ノ尙武集團直轄部隊（其ノ長振武集團長ヨリ上級先任ナル
場合ヲ除ク）ヲ指揮スルコトヲ得 海空部隊ノ指揮關係ニ關シテ

ハ別ニ示ス

九 通信並ニ兵站關係部隊ノ配屬ニ關シテハ別命ス

別紙第一ノ要旨

一 第八師團轉用兵力ノ基準

1. 師團司令部

2. 歩兵 聯隊本部二、大隊本部三、一般中隊七、機關銃中隊三

3. 搜索聯隊主力

砲兵 聯隊本部一、大隊本部二、野砲三門、榴七門、十五

榴七門、十五加三門

5. 工兵聯隊主力（一中）

三六

1113

6. 輜重兵聯隊主力（自動車二、中半、鞍馬二、中）

7. 野戰病院一、兵站病院一

8. 制毒隊、兵器勸務隊、防疫給水部、病馬廠

抽出要領

1. 水際並ニ海岸地帯ニ於ケル兵力ハ極力抽出セズ

2. 内陸ニ於テハ主要交通網ノ要點ニ兵力ヲ殘置ス

3. 全般のニ企圖ヲ暴露セサル如ク各方面共既駐屯地ニハ一部ノ兵力

ヲ依然殘置ス

殘置部隊

殘置部隊ハ強力ナル支隊編成トナシ通信情報能力並ニ交通網破壞能

力ヲ十分附與シ置クモノトス

27

2 航空軍ノ配屬

第十四方面軍司令官ハ昭和二十年一月一日零時ヲ以テ第四航空軍（

第二方面軍及第三十七軍作戦地域内ニ在ル部隊ヲ除ク）ヲ其ノ指揮

下ニ入ラシメラレタルヲ以テ左記「第四航空軍ノ作戦上準據スヘキ

要綱」ニ據リ比島方面ノ航空作戦ヲ遂行スル如ク命令シ且海軍航空

部隊トノ協同ニ關シ在比島海軍航空最高指揮官ト協定セシメタリ

左記

第四航空軍ノ作戦上準據スヘキ要綱

第一 方針

一、第四航空軍ハ敵ノ呂宋上陸ニ方リ之ヲ擊滅スルヲ主眼トシ右作

戦開始迄ハ好機ヲ求メテ敵艦船ノ擊滅及敵航空勢力ヲ制壓スル

ト共ニ敵ノ呂宋島進攻ノ企圖偵知ニ努ム

第二 要領

一、敵艦船ノ擊滅ハ敵ノ「ミンドロ」ニ對スル補給遮斷ニ重點ヲ置

三 敵航空勢力ノ制壓ハ「ミンドロ」ヲ主トシ適時「レイテ」方面
及空母ニ指向ス

四 我カ船團ノ掩護ハ前項ノ遂行ニヨリ極力其ノ目的ヲ達成スルニ
努メ所要ニ應ジ敵航空機ニ對シ北「サンフェルナンド」又ハ「マ
ニラ」泊地（状況ニ依リ航行間ヲ含ム）ヲ直接掩護ス

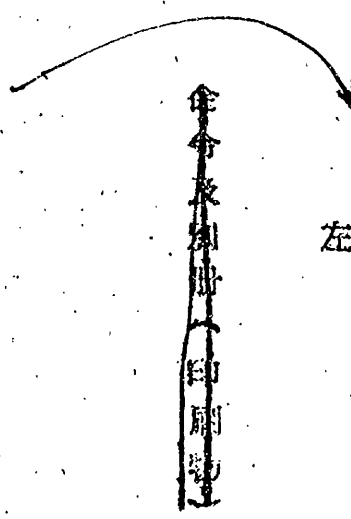
五 敵ノ呂宋島ニ對スル上陸企圖ヲ監視ス
之カ爲主トシテ中、南部比島ニ於ケル敵航空ノ状況位ニ敵艦船
ノ一般動向ヲ搜索シ敵ノ進攻ノ時機、方向及規模ノ速カナル偵
知ニ努ム

六 敵ノ呂宋上陸ニ方リテハ爲シ得ル限りノ兵力ヲ擧ケテ敵船團ノ
覆滅ニ指向ス

所要ニ應ジ攻撃ノ重點ノ指向方面ヲ指示ス

七 敵軍上陸スルニ至ラバ方面軍各地上兵團ト密ニ協力シ爲シ得ル

28



限リ敵ノ進攻ヲ擊碎シ敵企圖ノ假推ニ務ム
 八呂宋島ニ於テ縱深アル航空作戰ノ遂行ヲ期スル爲北部呂宋ノ航
 空基地ヲ整備強化ス

3. 「クラーク」據點ノ設定

「クラーク」據點ノ設定ニ關シテハ該地區ニ在リシ戰車第二師
 團長ヲシテ之カ準備ニ著手セシメタル敵上陸時ニ於ケル戰車師團
 ノ運用ト情勢上據點ノ構成ヲ促進スル必要トニ鑑ミ航空軍ノ協同
 移ヲ命セラレタリ 一月一日左記方面軍命令下達セラレタリ

左

記

要

四〇

1117

高千穂

尚武集團分會

團ノ作事ニ記述ス

註、本命令ノ實現ニ關シテハ第四章「クラーク」地區建武集

別冊 建武集團作務總述

29

尙武作命甲第三〇九號

尙武集團命令

一月一日 零時

陸軍司令部

1119

第四航空軍司令部

其集團長ハ現任務ヲ遂行スルノ外別册「クラーク」據點設定要領ニ準

據シ陸軍及海軍航空部隊ト協力シ「クラーク」據點ヲ設定スヘシ

前項工事ノ實施ニ關シテハ所要ノ所在部隊ヲシテ陸軍團長ノ區處ヲ受

戰車第一師

據點長ハ尙武作命甲第二九一號ニ據ル「クラーク」據點ノ設定ニ關

シテハ別册「クラーク」據點設定要領ニ準據スヘシ

密ニ其集團及海軍航空部隊ト協力シ工事ノ實施ニ關シテハ其集團長ト

協定シ所要ノ所在陸軍航空部隊ヲ區處スヘシ

陸軍司令部

陸軍團長ノ中部呂宋ニ於ケル作戰ニ方リ附與セラルヘキ任務ノ腹案ハ

四二

別ニ訓令ス

四五

四 尙武建設團長ハ現ニ西部國道地區ニ於テ建設作業中ノ兵力ハ第二及第

三 工作隊ノ主力ヲ^{戦車第二師}駐兵團長ノ指揮下ニ人ラシムヘシ

五 兵站監ハ「サンフエルナンド」、「タルラツク」間ニ在ル補給廠及

衛生機關ヲ整理シ其ノ主力ヲ逐次「オードンネル」谷地ハ「クラーク」

據點補給廠新位置ニ轉移セシムヘシ

「オードンネル」ニハ成ルヘク速カニ兵站監部支部ヲ設ケ補給廠及

衛生機關ヲ統轄セシムルヲ要ス

「オードンネル」河谷ノ各機關設定ニ方リテハ特ニ飛行場適地附近ヲ

避クルモノトス

六 細部ニ關シテハ現地ニ於テ~~薩村~~參謀副長ヲシテ指示セシム

尙武集團長 山下 奉 文

下達法 印刷在附

配布先 驛・建設團・兵站監・旅武

報告(通報)先取(真・翼)一〇地區 GKS 一航艦。二航艦。二六航艦

30

尙武作合時録三〇九號別冊

↑クヲクク↓ 據點設定要領

74
74

1121

命令
第一〇三號
陸軍省
陸軍部

別冊「クラーク」據點設定要領

第一 「クラーク」據點ノ目的

- 一、呂宋作戰ニ際シ成ルヘク永ク「クラーク」飛行場群ヲ確保シテ其ノ機能ヲ發揮セシム
- 二、我カ軍ニ於テ飛行場ヲ使用シ得サル場合ニ於テモ成ルヘク永ク敵ノ敵飛行場使用ヲ妨害ス
- 三、中部呂宋地區特ニ「クラーク」飛行場群附近ニ於テ戰鬪キル陸海諸部隊ヲ山地帶陣地内ニ枚メ統一アル戰鬪ヲ遂行ス、之カ爲
- イ、「クラーク」區北方山地帶内ニ堅固ナル後郭的陣地ヲ設ケ長期持久戰ヲ行フ
- ロ、複郭陣地ノ前方要地ニ數箇ノ前進陣地ヲ設ケ好機ヲ作爲シテ短切果敢ナル反擊戰ヲ實行ス
- ハ、複郭内ニハ補給諸廠、病院、秘匿飛行場（一部ノ修理機庫ヲ含ム）ヲ收容ス

31

第二 「クライク」 據點ノ施設

四六

一 「クライク」 據點收容兵力ハ

陸軍 約二萬人 (最大限)

海軍 約一萬五千人 ()

其ノ他 約五千人 ()

トス但シ陣地ニ就キ戦闘スル兵力ノ掩蔽施設ハ約一萬人ヲ目途トス

二 「クライク」 據點ニ收容スル軍需品

彈藥 現ニ各部隊ニ保有セシメアルモノハ大部ヲ其ノ陣地附近ニ集積

ス 別ニ一師團會戰分ヲ「オードホル」補給廠ニ集積ス

糧秣 四萬人一年分ヲ保有スルニ努ム

但シ部隊陣地内集積ハ二ヶ月分「オードホル」補給廠集積

ハ三ヶ月分トシ之ニ應スル施設ヲ行フ

三 飛行場直接ノ對「ゲリヲ」ノ空挺・機械化急襲防衛ノ爲ノ諸設備ハ當

該飛行場ニ於ケル航空部隊ノ任トス

戰車隊ニ任

「クライク」飛行場群外方ニ於ケル前記ノ諸設備ノ防衛ハ關東軍ノ任

32

トス

四 飛行場西側臺地ニ設定スル前進陣地並山地内ニ設定スル複郭陣地ハ

戰車第二師 聯軍團長之ヲ計畫指導シ陸海軍作業部隊ノ作業ヲ區處ス

五 基地補給廠諸施設ハ主トシテ聯軍團作業隊ノ擔任トス

六 基地施設ノ重點ハ(緩急順序)ハ

第一 複郭陣地

第二 前進陣地

第三 補給廠施設

トス但シ作業ハ同時開始、併行實施トス

七 作業ハ一月末マテ一應之ヲ概成シテ使用ニ堪ヘ得シメ爾後引續キ

補備増強ス

第三 「クラシック」 振興ノ作業力

一 陸軍側作業力ハ聯軍團作業隊長之ヲ統一ス其ノ内容ヲ左ノ如ク豫定

ス 戰車第二師

(1) 聯軍團ヨリ

四七

1124

陸軍部

警備團工兵幹部ヲ主トシ

建設團第二工作隊 (兵 約 一五〇名歩(他)兵幹部若干)

建設團第三工作隊 (兵 約 四〇名)

臨時工兵隊 (兵 約 四五〇名)

(四) 陸軍航空部隊ヨリ

作戦遂行ニ支障ナキ限り成ルヘク多クノ兵力トス

三 海軍部隊ハ其ノ有スル爲シ得ル限りノ兵力少クモ二〇〇〇名ヲ豫定

ス

33

右ヨリ
一般下付ル

原紙ヲ更メテウツ

四、一九四五年一月上旬ニ於ケル軍隊部署ノ概要

一「バギオ」防衛ノ強化

「バギオ」ニハ一九四四年春以來第百三師團司令部位置シ同方面ノ防衛ヲ擔任シ其ノ「アボリ」方面移動後軍司令部ノ派遣班及有

力ナル兵站支部派遣セラレシカ一月初旬方面軍司令部ノ同地到着

ニ伴ヒ更ニ防衛ヲ強化スル爲一月六日左ノ如ク命令セラレタリ

而シテ兵站監ハ一月七日「マニラ」ヲ出發セシカ途中、敵駐及敵

機ノ妨害、橋梁ノ炸却ノ爲直路「バギオ」ニ前進スル能ハス一月

九日北「バンバン」ニ到着シ一月十五日頃ニ至リ防衛司令官タルノ

命令ヲ受領シ一月末飛行機ニヨリ「バギオ」ニ到着セリ

命令ノ要旨左ノ如シ

一、集團ハ「バギオ」周邊地區ノ防衛ヲ強化セントス

二、兵站監ハ「バギオ」防衛司令官トナリ別冊「バギオ」地區防衛計畫

張綱ニ尋キ「バギオ」周邊地獄ノ防衛ニ任スルト共ニ「バギオ」地

區駐屯地勤務ヲ處理シ駐屯諸部隊ノ軍紀風紀ヲ振肅スヘシ

命武作命甲第三二〇號ニ基ク「バギオ」兵站支部長ノ任務ヲ繼承ス

ヘシ

防衛地域ニ拘ラス當分ノ間「マンカヤン」及「バギオ」
「マンカ

ヤン」道ノ警備ニ任スヘシ

臨時歩兵第六大隊、捜索第十六聯隊、「マンカヤン」防空隊ヲ其ノ指

揮下ニ人ラシム

三、「バギオ」防衛司令官ノ擬任スヘキ「バギオ」防衛地域ノ境界左ノ

如シ

「キヤンプセブン」
「サントトーマス」山
「カルゴン」山

「アシン」
「トリアダット」
「西村四軒」
「トリ

ニダット」
北側高地
「ヤフドウエ」
「アントタモック」
「バラ

トック」

34

四 尙武「バギオ」派遣班ハ其ノ編成ヲ解ク

2 第十師團第十九師團ノ部署

「サンホセ」附近ニ在リシ第十師團ハ米軍ノ上陸ニ伴ヒ其ノ北方
地處ノ山地ニ障地ヲ占領セシメ又十二月末ヨリ逐次到着セル第十
九師團ニハ北「サンフエルナンド」附近ノ守備ヲ命シタリ詳細第
一章第五節ニ記述ノ如シ

五二

1128

初稿

「バギオ」地區防衛計畫要綱

第一方 針

敵航空及「ゲリラ」ノ攻撃ニ對シ尙武集團、海軍ノ指揮中樞竝ニ後方機關ヲ援護ス

第二 指導要領

一、對空、對「ゲリラ」戰鬪ノ爲、要點ニ所要ノ對空部隊、警備部隊ヲ配置ス

二、對空戰備ノ爲人員資材ノ洞窟式掩護施設ノ速カナル完成ヲ期スルト共ニ所要ノ對空部隊ヲ配置シ「バギオ」據點ノ庇護ニ任セシム

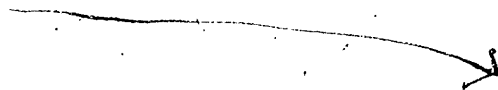
三、「バギオ」複據點ノ構築ヲ擔任スヘキ部隊トノ連絡ヲ密ニシ警備

ニ遺憾ナカラシム

第三 對空戰備要領

一 對空監視

監視所ノ配置別紙要圖ノ如シ



五三

1130

三 對空射擊部隊

一 高射部隊ハ増強ニ伴ヒ同部隊最高指揮官ヲシテ統一指揮セシム
二 主力ヲ以テ軍司令部周邊地區各一部ヲ以テ「トリエダツト」
地及飛行場ニ配置ス

三 防空通信

集團通信隊ヲシテ防衛司令部、防空監視哨、對空射擊部隊トノ相
互通信網ヲ構成ス
防衛司令部ハ別ニ^{第四航空軍}真部隊~~防空~~放送ヲ傍受シ、防空情報ノ收集ニ遺憾
ナカラシム

四 警報

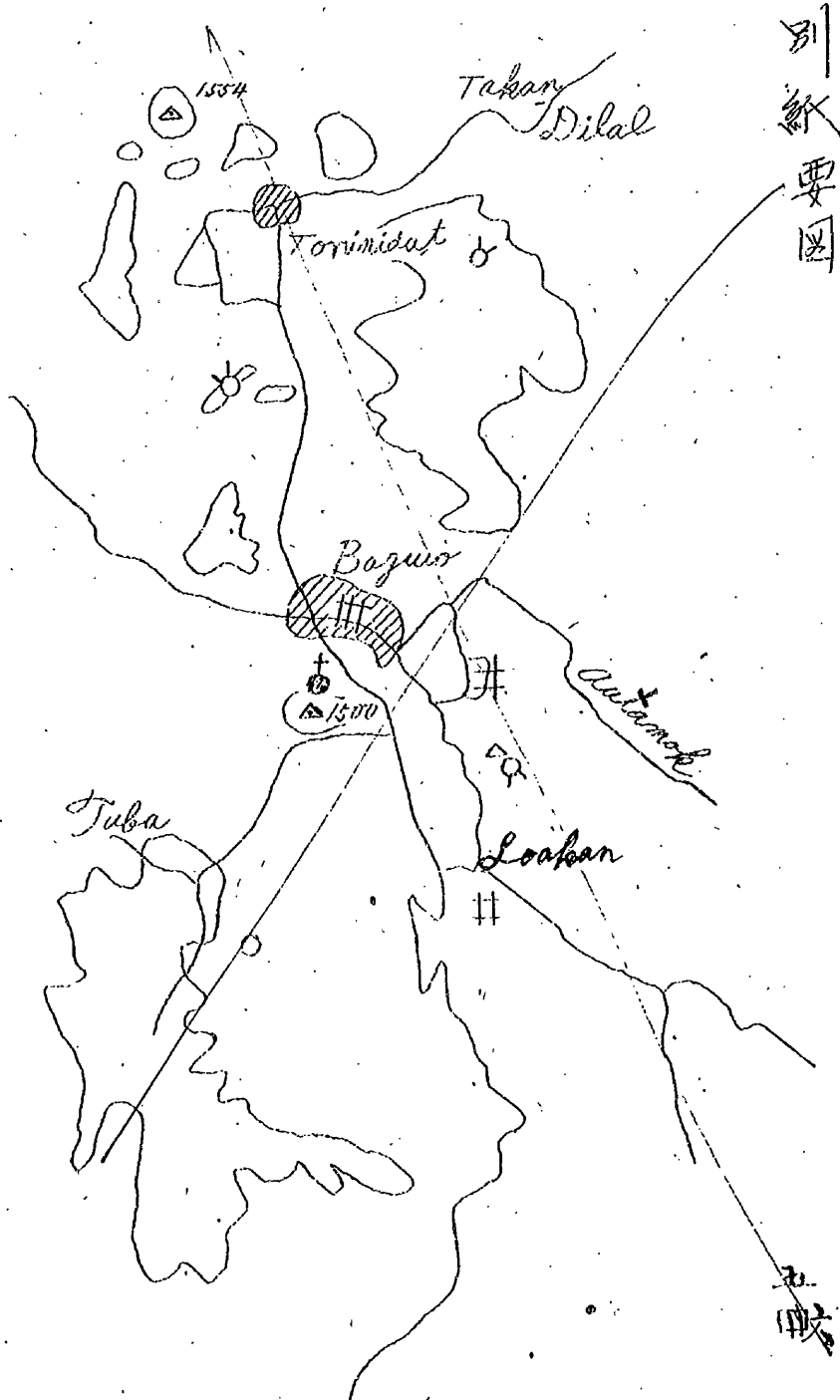
空襲、警戒、退避及同解除ノ警報取ニ同傳達要領等ノ細部ニ統シ
テ「バギオ」防衛司令官之ヲ計盤シ速カニ「バギオ」各部隊ニ
徹底セシム

表 四

第四 第一「ゲリラ」戦
陣地帯樂ノ爲ノ虎ノ島、海設園ノ配置ト連繫シテ「パギオ」市
外周ノ交通網ノ要結ヲ確保シ敵艦ノ潛入ヲ防止ス

五
ホ五

1132



別紙要図

2 第十師團第十九師團ノ部署

「サンホセ」附近ニ在リシ第十師團ハ米軍ノ上陸ニ伴ヒ其ノ北方
地區ノ山地ニ障地ヲ占領セシメ又十二月末ヨリ逐次到着セル第十
九師團ニハ北「サンフェルナンド」附近ノ守備ヲ命シタリ詳細第
一章第五節ニ記述ノ如シ